

活動名	団体名	青少年育成吉舎町民会議
日本の伝統に触ってみよう！観て・聞いて・感じて …狂言まるごと体験	地域	広島県三次市
	代表者	会長 吉崎 秀峰
	支援金額	20万円
活動概要	<p>日頃、生の芸術文化に触れる機会が極めて少ない子どもたちに、日本の伝統文化である「狂言」を間近で鑑賞し体験することにより各々の精神世界を拓き、新しい社会を創造する感性を育むことを目的として実施した。</p> <p>公演にあたっては、中学生のボランティア 2 名に、運営に参加してもらって準備段階及び公演当日にスタッフの一員として受付やワークショップ参加者の招集係として役割を担ってもらった。</p> <p>また、各学校から希望を募り、公演の舞台に上がり所作や発声などをプロの狂言師の教授により体験してもらう時間を設けた。</p> <p>◆実施時期 2012年7月8日(日) 開場 午後1時 開演 午後1時30分 吉舎生涯学習センター ホール</p> <p>◆参加人数 大人(高校生以上) 241名 子ども(小・中学生) 45名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:286名</p>	



平成24年7月8日開催
茂山狂言鑑賞会 受付風景



中学生ボランティアも、
受付スタッフとして大活躍！



ワークショップ
会場全員で狂言師なりきり体験



狂言「柿山伏」

◆実施に伴う効果

【子どもたち】

- 1 「思ったより難しくなかった。」「面白い。」という感想が多く、日本の伝統文化への興味の芽を育てることができたように思う。
- 2 茂山狂言会に工夫していただき、ワークショップで舞台にあがった者だけでなく、会場に集まった老若男女、お客様もスタッフも会場ぐるみで立ち姿勢や笑い方など狂言師なりきり体験をさせていただいたことが印象に強く残ったようで、「狂言師になりたい。」とアンケートに答える子どももいた。

【大人】

- 1 高齢の方でも生の狂言公演をご覧になったことのない方も多く、狂言という“笑いの文化”の奥深さに触れて感激されていたが、併せて私達の活動も知っていただけて、「また意義深い催しを期待している。」との言葉を多くの方にかけていただいた。ある高齢の女性は「いい冥土の土産ができた。いつ逝ってもいいわ。」と話された。このことから多くの方が、今回のような文化的な催しを望んでおられるのに、行政の広域化や財政難などの理由から企画し実行する主体が現れない地域の現実が浮き彫りにされた。
- 2 教科書に載っている演目であったこともあってか、三次市内全小中学校にポスター掲示をした効果か、小学校の先生方が多く見えられて、生の狂言を体験し、今後の授業に活かしたいと言っておられた。吉舎町の子どものみならず市内のすべての子どもに私達の取り組みが良い効果を生めばという願いもあったので嬉しい言葉だった。

【スタッフ】

- 1 最初は、私達のような小さな団体では手に余る取り組みと成功を危ぶむ意見もあったが、予想を超える来場者と来場者の笑顔や感謝の言葉に、若いスタッフにも少なからず自信を深めた様子が見えた。子ども達の健全育成に取り組む私達の活動の鍵は、子どもたちの一番そばにいる若いお父さんやお母さんが如何に真摯に取り組む周囲を巻き込んでいくかであり、その意味でも企画立案や訴える場づくりのノウハウを多少なりとも伝えられたのではないかと考える。

【狂言会】

- 1 最初に、私たちの団体の目指すものや公演を通して伝えたいことを事務局の方と十分に話し、会場の図面を送って動線の確認までしていただいたおかげで無駄なく効果的な催しとなった。特に、前述した会場ぐるみのワークショップは、小さい会場ならではの試みで、お客様はこれで一気に狂言の世界に引きずり込まれたように思う。プロの凄みのようなものを感じた。

◆苦勞した点

- 1 当初は、実行委員会形式で子供たちの代表との直接的な話し合いを計画していたが、クラブ活動や塾通いなど子どもたちの実態のなかで変更せざるを得なかった。そのため、小中学校の保護者をスタッフの一員とし、彼らを通じて子どもたちの意見や思いを吸い上げる形にとどまった。また、スタッフが若返ったことは嬉しいことだが、こうした事業に取り組むノウハウを知らないため事務局長頼みの部分が少なからずあり、時間的な制約の中で十分な話し合いもせず仕上げてしまった部分は反省点である。いつかは訪れる世代交代を円滑にするためにも、もっと自発的な提案を促したりよりよい催しにするための研究心を育てたり、若い世代のスタッフを教育していく必要を感じた。
- 2 ワorkshopへの参加について、当初は広報紙や町内の無線放送を利用したが、申し出がなく、町内の小中学校を巡回して人選をお願いした。しかしながら、校務が繁忙を極めるせいか学校側からの積極的な反応はなく、スタッフの人脈によりお願いすることとなった。
- 3 子どもたちに生の伝統文化に触れてもらうことを目的とし、より参加しやすい料金設定にしたため、当初予想していない遠隔地(県外)からのお客様や高齢の方が多く、肝心の子どもたちが予想よりも少なかった。学校の高学年担当の先生方には、思いを伝えつつもであったが不十分だったのかと反省するとともに、今後はPTA組織との連携をより密接にして、保護者への浸透を図ることを考えていきたい。

◆今後の課題・発展の方向性

- 1 町民会議の会員は働き盛りの保護者が多く、昼間の活動が制限されるため大きな事業を展開する場合のネックになる。また、不安定な雇用や変則的な勤務シフトの合間を縫って参加して下さっている方も多い。会議にも全員が揃うことが珍しく、会議の進行役である事務局長と部長が、事前に会議の方向性を確認し、資料を作成して効率的な会議を重ねることが肝要である。欠席した会員への報告等丁寧なフォローを忘れないことも重要だと考える。
- 2 事業が終わった後の検証・反省もしっかり行いたい。
演者の送迎の関係で、会場の後片付けや借用品の返却を部長ほか若いスタッフに任せましたが、現場責任者の確認が不足し、会場側から事務局長に後片付けの至らない点を指摘する電話をいただいた。これを良い機会と捉え、若いスタッフの育成に生かしていきたい。今回、参加された方は皆さん満足され、次回に期待を寄せる意見も多数聞いている。
私達の組織の認知度も継続的な取組みを地域の皆さんに評価いただき数年前と比べ、格段に上がっている。今後も町民がこぞって参加できる催しを通じて、町ぐるみで青少年の健全育成に取り組める環境を育てていきたい

◆活動を終えての感想・意見等

組織的には大きな挑戦でしたが、若いスタッフの頑張りでも成功に導くことができ安堵しています。この若い会員(お父さん・お母さん)のボランティア精神の芽を大きく育て、我が子だけでなくすべての吉舎町の子どもたちが瞳を輝かせて暮らせる環境づくりを継続していく仕掛けをしていきたいと思います。

マツダ財団の皆様には予算面でのバックアップをいただき有難うございました。予算面での不安が払拭されたことが、大きなイベントを控えての精神的な圧迫感をずいぶん和らげてくれた気がします。

茂山狂言会の役者さんにも、お客様の息遣いが聞こえる小さな会場で一体となった催しが創れて満足いただいたようでした。

5人の役者さんと新尾道駅で再開を約して握手した感触が忘れられません。

小さな失敗もありましたが、会場いっぱいのお客様の笑顔と感謝の言葉を糧に、今後も地域にサプライズを届けていきたいと思います。